

中国における「愛国無罪」の大義の下、反日行動が激化している。燎原の火の如くに中国全土に広まる可能性もなしとはしない。単なる示威行動から、日本の公館、日本の企業・商店、日本製品、果ては日本人そのものに対する破壊活動等までにエスカレートしつつある。彼等の諸行動を眺めてみると、当局の了解・容認の下にそれらが為されていると思わざるを得ない。あのような組織的行動が、自然発生的である筈がない。

自らの責任を認めないばかりは今回の事案の責任は総て日本側にありと表明するに至っては、彼等の倣岸さ、厚顔無恥に呆れざるを得ない。



かかる事態に日本政府は、対話を通じ“理解を求める”と言うが、“理解する気など毛頭ない者”に“理解を求める”ことなど所詮は虚しい努力に過ぎない、正に螻蛄の斧である。

責任を相手側に擦り付けるのは彼の国の常套手段である。そもそも、その原因は独善的な論理で一方向的にガス田開発を進めた中国にあり、日本側には全くの責任はない。何とか解決の道筋を見つけようと言う日本側の、どちらかと言うと「和をもって尊しと為す」の精神で紛争解決から目を背け、問題を直視せず棚上げしてきた日本側の虚を衝いての傍若無人な行動が全てである。日本側の不作為が今日の事態を招来したと言えなくもない。

「愛国無罪」、国を愛しての行動であれば、少々（?全てが）のことは許される、と言う屁理屈は、目的が正しければ殺人すら正当化されると言うテロリストの発想そのものである。今更言うまでもないが、目的が手段を正当化することは有り得ない。それが現代民主主義社会の普遍的な原理である。現代中国にはこの様な伝統があるのだろう。「造反有理」と叫んで、文化大革命を遂行した、それと全く発想である。当時も当局は造反有理を盾と言うか錦の御旗にして、紅衛兵や同調者の行動を黙認・容認してきたのである。歴史は繰り返している。

愛国無罪に躍らされる学生も何時か自分達がピエロであったことに気付くのだろうか。愛国無罪が反日的行動である限りにおいては、当局は目を瞑っていよう。然しながら、当局の意に反して、愛国無罪が何時反政府の方向に向かわないとも限らない。その時にも愛国無罪が許容される保障はない。むしろ、“愛国無罪”にも拘わらず、強烈な弾圧を受けよう。天安門事件の様に。何故に彼等はその事に気付かぬのか。

日本人同志の喧嘩はいざ知らず、価値観の異なるものとの論争においては徒に譲歩することは、決して得策ではない。正々堂々と主張すべきを主張しなければ、相手の論理を認めたこととなってしまう。相手以上に挑戦的・好戦的になる必要は毛頭ないけれども、相手に言われっぱなしではいけない。官邸はいざ知らず、外務・経産両大臣は言うべきをしっかりとやっているのだから、今までの大臣と一味違うかなと感じるのは、偶々両大臣と若干の接点があったが故の小生の欲目か。

ガス田試掘権に拘わる手続きも粛々と進めれば良い。それが日本の断固たる決意の表明であり、その事のみが彼等をして立ち止まらせ、話し合いのテーブルにも着かせよう。

もう一点は、国際世論を味方にする事だ。日本の正当性を然るべき世界の諸国に理解

させねば、何時しか日本は孤立無援の状況に追い込まれてしまう。そうってからでは遅い。正しいものが最終的には勝利すると思うのは甘すぎる。声の大きい者が勝ってきたのが現実の世界である。その様な現実を確実に認識して然るべき手を打つべきだ。それが戦略である。手を拱いていると中国にしてやられる。否、既にそうなりつつあるのかも知れない。権謀術数の限りを尽くして、血生臭い権力闘争を三千年にわたり繰り返してきた支那大陸の民である。甘い日本民族など赤子の手を捻るよりも容易だろう。